



喜多菜

菜種と天神様

当宮御旅社の鎮座します梅田の茶屋町は、江戸時代には灯明用の菜種油を作る為に、「菜の花や月は東に日は西に」と一面に菜の花が広がる地でありました。そんな菜の花と、天神さまは実はちよつと関係があります。

天神さまこと、菅原道真公が薨去あそばされたのが、延喜三年二月二十五日。この日付は旧暦ですので、現代の暦に直しますと、三月下旬頃。ちょうど菜の花が満開の時期に道真公はお亡くなりになりました。

ご参拝の皆様はご承知のように、道真公は死後、天満大自在天神におなりあそばし、いわゆる天神さま・雷神さまとして、無実の罪を着せた佞臣に雷火を落とされるなど、平安時代には祟りなす神として恐れられました。

しかし、ご命日である旧暦二月二十五日を迎えるごとに、優しく咲く菜の花がその荒ぶるお心を次第に慰めた事で、祟る神から、冤罪を救う神、そして現代では学問の神様として慕われるようになったといわれています。

そこから、菜の花が天神さまのお心を宥ね(菜種との掛詞でもあります)たといわれ、江戸時代には菜種御供という菜の花ゆかりの神事も執り行われていました。しかし太陽暦に移った明治時代になると、新暦二月二十五日にはまだ菜の花は咲いていない為、次第にこの菜種のお話も失われていきましたが、昨今、茶屋町ゆかりの菜の花に注目が集まっており、その中でこうした故実が徐々に復活しつつあることに、天神さまもお喜びになられているのではないかと思うところです。

菜種守の授与

上段にも書いてあります通り、天神さま、そして茶屋町ゆかりの菜の花は、人々の心を和ませ、丸くするというチカラがあるとされ、天神信仰においては重視されています。

そうした菜の花や、かつて当宮で執り行われていた菜種御供の故実に由来して、この度、新しい御守「菜種守」を奉製いたしました。

梅田・茶屋町ゆかりの菜の花はもとより、鶴乃茶屋ゆかりの鶴、与謝蕪村ゆかりの日月、梅田の牛の藪入、キタの九階と呼ばれた凌雲閣を柄に織り込み、荒む心を宥め、気持ちよく、イライラを鎮め、冷めた心を温め、優しさを育む事を祈念した開運の御守です。

二月二十五日から四月初旬(菜の花の咲いている間)までの限定授与となります。

震災義捐金箱の設置

早くも東日本大震災の発生から三年になろうとしています。昨年度は、ご参拝の皆さまからの、八四六八一円の義捐金が集まりました、一昨年度同様に、被災地各地の神社へお送りさせて頂きました。

しかしながら、本当に大変なのは、この三年目からです。「長く被災地に思いを致し」本年も今月十一日頃より、茶屋町の御旅社に義捐金箱を設置させて頂きます。

厄年の御祈祷

当神社では厄年の厄除け祈祷を受け付けております。御祈祷はご予約制ですので、事前にお電話等でご予約下さい。

男性		
前厄	本厄	後厄
平成 2年生(年) 24歳(小厄)	昭和 64年生(巳) 25歳(中厄)	昭和 63年生(辰) 26歳(小厄)
昭和 48年生(壬) 41歳(中厄)	昭和 47年生(子) 42歳(大厄)	昭和 46年生(癸) 43歳(中厄)
昭和 29年生(辛) 60歳(小厄)	昭和 28年生(申) 61歳(中厄)	昭和 27年生(未) 62歳(小厄)

女性		
前厄	本厄	後厄
平成 8年生(子) 18歳(小厄)	平成 7年生(癸) 19歳(中厄)	平成 6年生(壬) 20歳(小厄)
昭和 57年生(戌) 22歳(中厄)	昭和 56年生(酉) 23歳(大厄)	昭和 55年生(申) 24歳(中厄)
昭和 53年生(年) 36歳(中厄)	昭和 52年生(巳) 37歳(中厄)	昭和 51年生(辰) 38歳(小厄)
昭和 29年生(辛) 60歳(小厄)	昭和 28年生(申) 61歳	昭和 27年生(未) 62歳(小厄)

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江秀知

